

# 教室の感染対策について

当教室では対面で通常授業を継続しておりますので、生徒さんが安心して通塾できるように万全な感染対策を行っております。

## ① マスク着用の義務付け

生徒、講師ともに教室内でのマスク着用を義務付けます。

※ お子さんにはマスクの用意、着用を徹底させて下さい。

※ 教室には生徒用マスクを常備しています。

## ② 手指消毒用アルコールの設置

玄関や各教室に消毒用アルコールを設置し、入退出時に手指消毒を行うよう生徒に促します。

## ③ 手洗いやうがいの指導

入退室時、および授業の合間での手洗いやうがいの励行を促します。

## ④ 講師・生徒の体調確認および授業参加の自粛要請

講師・生徒ともに授業当日は自宅での体調確認をした上で教室に来てもらうようにしています。発熱やその他の体調不良が認められる場合は、授業への参加を控えていただきます。

※学校でコロナ感染による学級閉鎖や学年閉鎖がある場合は、

その期間中の通塾、受講を控えていただきます。  
※教室でも検温をさせていただきますが、ご家庭でも可能であれば塾当日に検温を心がけてください。

### ⑤生徒、講師間の適切な距離の確保

各授業で使用しない机をその都度教室外に移動させて、出来るだけ講師、生徒それぞれの距離をとれるような席の配置をしています。

### ⑥受講生の人数制限をしています。

1クラスの受講生の人数制限を行っています。密を避けるため大教室7名、中教室5名、小教室2名を目安に人数制限をして授業を行っています。

### ⑦生徒の検温(入室時)

入室時に担当講師が生徒の検温を行います。発熱が認められる場合は、状況により帰宅を促します。

### ⑧換気の徹底

授業中は基本的に常時窓を適度に開けた状態を保ちながら常に換気を行っています。

### ⑨講師のフェイスシールド着用

授業によって講師はマスク着用に加えフェイスシールドの着用もします。特に小学部の対面での指導時には必ず着用します。

## ⑩次亜塩素酸水による空間除菌

講師や生徒が教室にいる間は専用加湿器(自然蒸発)を使用して空気除菌をしています。いろいろな方式の空間除菌を検討してきた中でその有効性と安全性から現行の機器を採用しています。

※次亜塩素酸水についての安全性等に不安や感心がある方は、後述の詳細をご一読いただき、触接教室にご相談ください。

## ⑪オゾンによる教室内の除菌

オゾン発生器を使用して空気中でオゾンと接触・反応させることでウイルスや細菌を死滅させます。生徒・講師のいない夜間のみ行い、教室内の全ての空間のウイルス除去を図り、翌日へのウイルス残存を防ぎます。

※オゾン殺菌は病院や救急車内、その他の施設等で行われているものですが、独特の臭いを伴うため夜間の使用に限定しています。

## ⑫教室内の清掃・除菌作業の励行

生徒・講師が使用する机等は入れ替えのたびにアルコールで消毒をします。また毎日の清掃作業に加えて、特に床や壁、手すりなどは次亜塩素酸水やアルコールを使用して念入りに除菌作業をします。

## ⑬入室時の生徒の検温

入室時に非接触型体温計で担当講師が行います。平常より

も高めの体温と判断した場合は自宅に連絡後、帰宅していただきます。

## 〔その他の検討事項〕

### ○間仕切り、つい立て等の設置

現状では生徒の入れ替えの高い頻度から消毒作業の徹底が難しいため保留していますが、今後の感染状況や授業形態の変更等に沿って検討をします。

◎以下はご関心をお持ちの方にお読みいただきたいと思います。

## 《次亜塩素酸水空間除菌加湿器使用の安全性》

令和2年に新型コロナの感染が広がった頃、次亜塩素酸水の存在が注目される中、SNSではいろいろな誤った情報が飛び交い、テレビでの伝え方にも説明不足があり、世間でその使用を不安視する声も上がりました。教室での使用についてご家庭で不安を感じる方が少しでもいらっしゃるといけませんのでその安全性についてきちんとお伝えすべきと考えました。結果として長いご説明になりましたが、ご了承ください。

次亜塩素酸水は正しく使用することで非常に安全で有効な新型コロナウイルス対策ができます。ところが、当初不足してい

るアルコール消毒液の代替として急に注目されるようになった次亜塩素酸水自体の誤った理解からさまざまな問題が生じ、一部でその安全性が危惧されるようにもなりました。

当時は当教室でもその点を憂慮して使用を保留したこともありましたが、次亜塩素酸水、そしてその使用に関わる問題と安全性について後に明らかになったことを二つの要素をあげてご説明します

一つ目は次亜塩素酸水の定義が非常に複雑なことです。それによって多くの誤解や問題を生み次亜塩素酸水自体の信頼性が揺らいでしまいました。狭義の次亜塩素酸水に全く性質の異なる次亜塩素酸ナトリウムを合わせた広義での次亜塩素酸水という捉え方もあります。狭義の次亜塩素酸水自体はインフルエンザに対する高い不活効果がすでに認められており、構造が似ている新型コロナウイルスに対する効果についても期待が高まりました。そして多くの研究機関での研究が始められ、その後一部の研究で高い不活効果が実証されました。安全性の観点からも、適切な濃度での使用ならば人体への悪影響も非常に少ないという大きなメリットがあります。教室で使用するのはこの次亜塩素酸水の中でもより安全性の高いタイプのもので採用しています。

一方次亜塩素酸ナトリウムは一般家庭で使われるハイターなどの漂白剤の主成分で、その危険性は次亜塩素酸水の80倍と

されています。こちらを“安全性の高い次亜塩素酸水”と謳って様々なタイプの商品が大量に流通し誤った方法で使用されてしまったことで実際に多くのトラブルが起きたようです。

さらに状況を複雑にしていることがあります。次亜塩素酸水(ここからは狭義での)にはさまざまな生成法があり、濃度の違いによって使用目的や使用法が区分される場合もあります。当然細かな呼び分けもでき、一部だけ別名で呼ばれることもあります。少しでも雑な説明をしようものなら当然ながら情報が錯綜します。現在 YouTube などの SNS では次亜塩素酸水についての“専門家からの解説”なる動画が非常に多くあげられていますが、その多くは誤解を招くような曖昧な説明であったり、素人の私から見ても明らかに間違った説明のし方をしています。これらも誤解や懸念を大きく助長したと思われれます。当教室で使用する次亜塩素酸水は生成法での区分けでも濃度での区分けにおいても高い安全性を持つものに当たります。

二つ目の要素は使用方法や管理方法が安全性や効力を大きく左右することです。次亜塩素酸水が安全なのはあくまでも適正な濃度で適切に使用する場合です。感染者の嘔吐物の消毒などには高濃度で用いられるようですが歯科医院では昔からうがい用にも使われているようです。適切な濃度や使い方であれば私たちでも物品消毒や手洗い、空気除菌に利用できます。教室ではもちろん適正な濃度で空間除菌を行います。ただしこの空間

除菌についてはその方法が非常に重要になります。先に触れた次亜塩素酸水という名前の危険性のある液剤を生成あるいは噴霧する商品は論外として、次亜塩素酸水を一般的な加熱式の加湿器や空気清浄器に水の代用として用いて噴霧する場合もあるようですが、この場合は有効性や安全性においてやや疑問視される範囲となるようです。それで次亜塩素酸水での空間除菌が健康を害する可能性が危惧されているのだと思います。教室で使用する器具は液をそのままの濃度で噴霧(ミスト散布)するのではなく液から揮発するガス(気体)を発生させる方式です。つまり無理やり空気中に細かな液体を放出するのではなく、フィルターに含ませた水溶液を空気の流れて蒸発(気化)を促すというものになります。

他にも空気除菌への評価が分かれる要因があります。次亜塩素酸水は水溶液の状態だと時間経過や紫外線の影響によって著しく効力が低下する性質があります。また有機物(菌やゴミなど)と反応すると水になる(薄くなる)性質もあります。流通の仕方によっては使い切るまでに効力を失ってしまう、さらには届いた時点で効力がないという可能性さえあるようです。この現状が、危険性というよりも効力について疑問視される要因になっていると考えられます。教室では業者から製造したばかりの製品(液)を定期的に送られて来るものを使用期限内で使用しているので本来の効力を発揮できていると考えています。

以上が次亜塩素酸水による空間除菌に対する教室としての捉え方になります。化学については全くの素人の私ですが、教室の安全のためにいろいろな情報から学んできた現時点の視点からすると、令和2年に新型コロナの感染、拡大が始まった頃と比較すると次亜塩素酸水自体もかなり安全性の高いものに淘汰されてきたと感じています。実際に当教室で当初採用していたものもその安全性については問題なしと判断していましたが、実際に使用に問題はなかったはずですが現在はそのタイプの商品は恐らくほとんど流通していないはずです。そのくらいにより安全性の高いものが世間に出回ってきていると言えると思います。もちろん現在は当教室もより安心して使用できるものを採用しています。こちらはテレビで紹介された経緯もあり現在は非常に信頼性のある商品として採用も増えているようです。

最後に“安全”ということばの捉え方についてお伝えします。安全性という一つの尺度で説明をしてきましたが、少なくとも次亜塩素酸水の範囲でいえば適切な選択や使用でなかったとしても、具体的に健康を害することにつながるほどのものとは捉えていません。化学的な根拠からの推察の領域です。専門的な扱いになればなるほど100%安全という言葉は使用できなくなってしまうのです。当然素人の私が“100%安全です。”という言葉をご家庭に発することはできませんが、素人なりの言葉で最後にお伝えしたいと思います。日常で塩素を含んだ水道



水を口にしたり、塩素系の薬剤を含んだプールの水で泳いだりすることに特に不安を感じないのならば、“水道水程度の体への負担”という水を含む空気の中でも安心して勉強していただいで良いのではないのでしょうか。

◎感染症対策に関してのご意見やご質問などありましたら是非教室までお寄せください。

東久留米学習塾プレゼンス 小籠